きもちは、言葉をさがしている

「紅茶の時間」とその周辺

第 40 話

水野　ス ウ

今年の、ピースウォーク金沢2020のこと

9.11の同時多発テロをきっかけにはじまった金沢の市民アクション、「ピースウォーク金沢」。前号マガジンには、その20年の歩みをふりかえって「ピースウォーク金沢ものがたり」という文章を書き、その最後に、今年は「グローバル気候マーチ金沢」という新しいグループ、気候危機を自分ごととして活動しはじめた子育て世代の人たちとコラボしながらピースウォークします、と記しました。

ところがそこへ、新型コロナウイルス！　2月末、安倍首相が突然、大きなイベントの自粛要請、続いて全国一斉休校の要請を発表したあたりから、コロナをめぐる社会の空気がどんどん変化していき、金沢でもマスク姿が目立つようになってきました。こんな状況で、はたして今年、数百人で集まってのピースウォークができるだろうか、日も近づいているし、もう延期しかないのじゃないか。実行委員会にたくさんの異なる意見が出される中、何度も話し合いを重ねて、その結果、私たちは予定通りの日の3月20日、いつもとはちがうかたちのピースウォークを実現させました。

前号はピースウォーク金沢のこれまでを、今回は、今年のウォークがどういう経過を経てそうなったのか、記録の意味もこめて書いてみようと思います。

「延期はゼロと同じ」

3月5日、第8回実行委員会。メインの議題はもちろん、今年のウォークをどうするか、です。まず最初に、その日参加できないメンバーたちが、その日までに委員会で共有しているFacebookのグループページに書き込んだ意見をすべて読み上げてから、そこにいる一人ひとりが順に自分の考えを言葉にしていきました。延期を希望、延期した方がいい、の声が圧倒的に多い中で、今だからこそ歩こう、という声もあります。不思議なことに、中止、という単語は誰からも出ません。

こういう時、手っとり早く多数決で決めないところが、いかにもピースウォークらしいのです。平ら

に話しながら対話して、よりよい方向をさぐっていこうとする。ピースウォークを今年するかしないか、いずれ結論は出さなきゃならないけど、今日はまだ、悩んで考えて一人ひとりが言葉を発していく日だ。話し合いにかかる時間や手間ひまを、めんどくさくても省略しない。それが長い間に培われたピースウォーク金沢の、おおげさにいえば伝統だからです。

私はといえば、このご時世だからまずいでしょ、って理由でやめるのも、萎縮と忖度からの自粛、という3つの「く」でやめるのもいやだなあ。とはいえ、不安なきもちで歩く人がいるとしたらそれはピースウォークが目指す、本来のピースではなくなるし、何より、ウォークに行く？　行かない？　と訊くことでピースウォークを踏み絵にする、なんてことは決してしたくない。Facebookのグループページに寄せられた意見、そしてこの場で聞いた意見、総合すれば延期の方が多いし、私自身も今年は延期するしかないかなあ、という気持ちでいたのです。

意見がほぼ出つくしたころ、今年から実行委員に加わった「グローバル気候マーチ」代表のKさんが、こう発言しました。

「自分にとって、延期はゼロと同じなんです。3月20日にまったく何もしないのは、中止するのと同じ意味。気候危機は今年が正念場って言われてます。大きなマーチは延期でも、たとえば小マーチとか、街を歩くのが不安な人はおうちから発信するとか、離れていても参加できる、そんな方法を探りたい。そして自分は、少人数であっても歩きたいと思っています」

その言葉を聞いた時、延期以外ないと思い込んでいた私の気持ちが、ゆらり、動きました（きっと他にもそういう人、いたと思う）。そうか、実際のウォークに参加できなくても、違う方法で参加する、という手が今はあるんだ。コロナが気がかりだから大勢では集まれない、それを逆手にとって知恵をしぼればいいってことなんだ。ピースウォークのこれまでのかたちを取っ払って、今の状況でできることを考える。まして「グローバル気候マーチ」メンバーには、そういうことに詳しい若い人たちが何人もいたことに気づかされまし

ピースウォークのウォークは文字通り、「歩く」だけれど、街を行進するだけがウォークじゃないんだと思えた、その夜の実行委員会でした。

知恵とユーモアで

3月10日、次の実行委員会。ウイルス感染は、日本国内、そして県内にも拡大して、屋外での市民のイベントすら、開催が難しくなってきました。その日の話し合いのテーマは、具体的にどう歩くか、どんなかたちのウォークにするか、でした。

「やっぱり当日、歩きたい。外だし、間隔を開けて歩けば大丈夫なんじゃないか」という意見。「いや、この時期、たとえそう大人数でなくても、街を練り歩くこと自体、どう見られるかを考えないと。長年これまでみなで大切にしてきたピースウォークに、マイナスのイメージがつくんじゃないか」「いや、こういう時期だからこそ歩きたい、歩くべきだ」「ピースウォークはそもそも個々人の集まりなんだから、歩きたい人が歩けばいいんじゃない？」「それはそうだけど、それでもやはり、ピースウォークという団体が歩いている、と見られることになってしまうよ」などなど。意見は大きく分かれて、その場の空気がぴーんと張りつめていくのがわかりました。

その時でした。実行委員の一人で、ライブ喫茶の店主、そして金沢市議でもあるMさんが、いつものようにひょうひょうとした口調で、「ピースウォークは延期します。ってお知らせのために歩けばいいのでは？」と発言したのです。

そのひと声に一同どよめき、それまでの緊張が一気にはじけて大爆笑になりました。なんと痛快、まさかそんな発想があったとは！　そこへすかさず別の人が「“延期します”と書いたボードの裏に、“でも平和は延期できません”って書こう！」グローバルマーチのKさんが「“気候問題も延期できません”ってボードもいるね！」と続けます。

知恵とユーモアと頓知（とんち）とちょっぴり風刺のキャッチボールで場が一気に活気づき、次々アイディアが生まれてきました。どこからでも、おうちにいても参加できる方法として「ピースウォーク　平和と気候のWebアクション」を、ネットで広く全国に呼

びかけよう。平和と気候変動へのメッセージを紙に書いて、それを持った自分を撮影して、その写真をウォークの日をはさむ4日間、ハッシュタグ「#peacewalk2020」をつけてSNSにあげていく。金沢、石川はもとより全国から投稿してもらおう、というテレワークならぬ「Webでウォーク」の提案です。

加えて、これまではウォークに参加した人だけが受け取ることのできたピース割引MAP(このMAPをピース割引協力店で提示すると、食べ物やドリンクがちょっとお得になる)を、今年はWebアクションに参加した人もMAPを使えることにしよう、となりました。

2014年からはじまったピース割引の取り組みは、年を追うごとに協力店の数がふえて、ウォークする金沢の中心市街地界隈のお店のほか、今年は県内24ものお店からご協力をいただいていたのです。コロナの影響でどのお店もお客様が激減と聞き、日ごろからピースウォークを応援してくださっているお店の方に、こんな時こそ感謝を伝えるいいチャンス、できるだけ多くの人にお店のことを知ってもらおう、と考えたのでした。

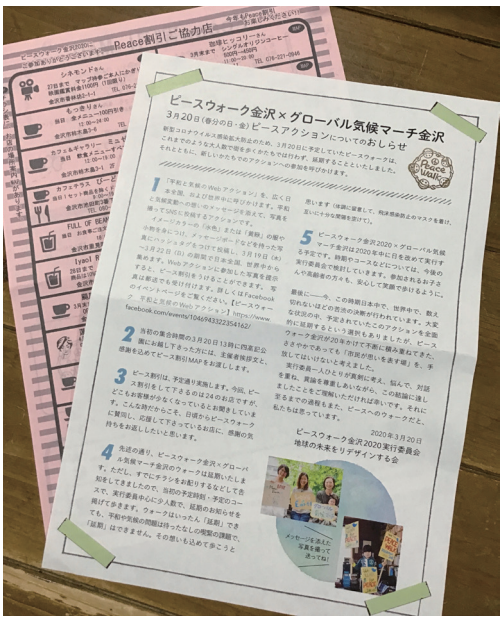
延期お知らせウォークとWebでウォーク

3月20日ピースウォーク当日。集合場所は毎年、金沢香林坊近くの四高記念公園です。延期のことは新聞でもSNSでもできる限りお知らせしたけれど、ピースウォークはいつも、誰が突然飛び入りで参加してくれるかわからないオープンなイベント。延期を知らずに例年のようにやってくる人がいるかもしれない。そんな人たちのために、実行委員の何人かは、ウォークのスタート予定だった場所で待っていることに決めていました。

その時間に集まった人たちは、実行委員も含めて40人弱だったでしょうか。いつものような開会の集会をしない代わりに、主催者側から短い挨拶で、今年のピースウォークがいつもと違うかたちになったことを説明し、そのことを記したご挨拶文*とピース割引MAPを配りました(*最終ページ参照)。

青空の下でピースウォークに賛同したロックシンガーさんが1曲歌い、みなの心がホッとあったまってから、実行委員を中心に歩きたい人、あわせて約20人によるこじんまり&ゆったりウォークが、時間通りにスタートしました。

この20人という人数も、実行委員で事前に話し合って決めたもの。全員、マスクをして、間隔をあけて、「ピースウォーク金沢×グローバル気候マーチ　今は延期」「でも平和は延期できません！」「でも気候の危機はすぐに止めたい！」とはっきり描かれたボードを手に手に掲げて、予定通りのコースをゆっくり歩きました。前代未聞の、静かだけれど色



とりどりな「延期お知らせウォーク」をしたのです。

ウォーク組を公園で見送った人たちは、解散場所の金沢市役所前広場に先回りして、小一時間後に戻ってくるウォーク組を出迎えます。私も迎える側の一人に。おかえり〜と迎える側も、ただいま〜と帰ってくる側もみな、例年以上に、笑顔、笑顔。なんだろ、この不思議な達成感。

人数だけで見たら、こんな少人数のピースウォークははじめてです。どんどん世の中が非常事態に近づいていく中で、だけど、今年も歩くことができた。いろんなことに配慮しながら、私たちらしさを失わず。ウォーク組を笑顔で迎えながら、私自身は歩いてないのに、あぁ、今年も歩けたね〜って、一緒に歩いたようなきもちが、じょわ〜んと足元から満ちていくような気がしました。

何度も実行委員会を重ねて、対話をくりかえして、中止でなくて延期するけど、それもただの延期ではなくて、延期しますのお知らせウォークを少人数でし、ウォークに参加してねと呼びかける代わりに、Webでウォークに参加してね、とよびかけた、今年のピースウォーク×グローバル気候マーチ。

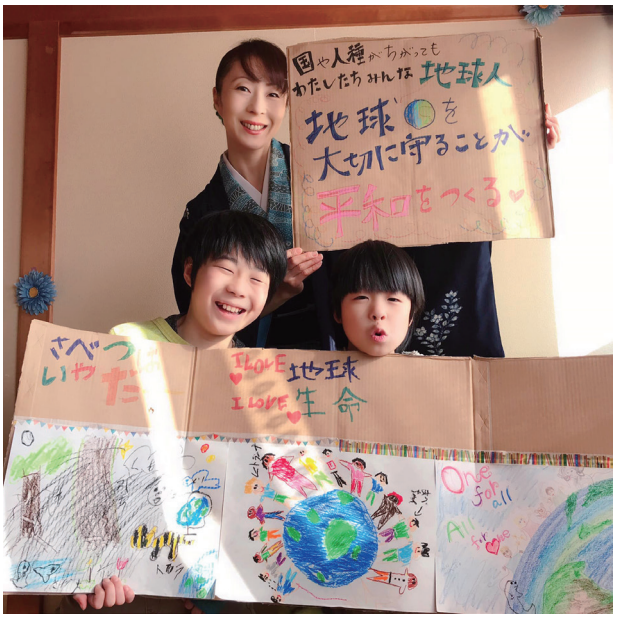
コロナのことがなければおそらくここまで知恵を出しあえなかったかもしれません。コロナ状況が日毎に変化していく中、誰もが慎重に行動しなければならなくて、歩くこと自体をとりやめる選択肢もあったけれど、制限のいっぱいある中、できることをみなで必死に探した、考えた、案を練った。その中心にあったのは、ピースウォーク金沢がずっと大切に守ってきた「市民が思いを表す場」を簡単に手放してはいけない、という個々の意思でした。

決して大人数ではない実行委員一人ひとりが、誠実にそれぞれのしごとをしたことがすばらしかった。仕事で実行委員会に一回も出られなかった人も、表に見えないところで、その人その人の特技をいかしてサポートしてくれた。そのおかげで、短期間にたくさんのことを生み出していけました。

ピースウォークのこれまでとこれからを考え、いつも全体を見て冷静な判断をした、前号に登場したピースウォーク第1回からの呼びかけ人の小原美由紀さん、「延期しない」と宣言して、Webアクションの発信と仕組みをつくったKさん、「延期しますウォーク」のアイディアで議論の突破口を開いたMさん。他にも、ネット空間に寄せられた数々の写真とメッセージを拾い集めて一ヶ所に集める作業をした人、実行委員会の詳細な記録を委員会ページに毎回あげ続けた人、手間暇かかるピース割引MAPをつくった人、たくさんのお店に声をかけて協力店をふやした人、延期ウォークをはっきり知らせるボードのデザインをした人、ピースウォークの前日、丸一日かけてそのボードを何枚もつくった人たち、関わったすべての人が自分のできるしごとをせいいっぱい。それがあってのピースウォーク2020。そんな仲間たちをいつも以上に誇りに思いました。

ここに至るまでの紆余曲折の道のり、一人ひとり悩んで考えたことを言葉にして、対話を重ねて一つひとつ決めていった、この話しあいの過程そのものが、民主主義の練習だし、何よりピースウォーク＝平和への道なのだ、と実感しました。

ピースウォークの日をはさんだ前後4日間、「平和と気候のWebアクション」には、金沢、能登、県内はもとより、北海道から九州から、関東、関西、瀬戸内、東北、アメリカからも、100人を超える人たちが思い思いのメッセージと写真を送ってくれました。



「遠いけどWebで参加できてうれしい」「メッセージボードを作りながら、子どもと一緒に平和の意味を考えました」「勇気出して表現しました」「こんなやり方があったんだ！」とうれしい声が続々寄せられました。それらのメッセージはいつの日か、実行委員のMさんのお店で平和と気候のメッセージ写真展として開催したい、という計画をじっくりあたため中です。

たった2ヶ月前の出来事だけど、あの時より少しでも遅かったら、実行委員で顔を合わせて話し合うことすらできず、延期お知らせウォークの実現もなかったでしょう。奇跡のタイミングに感謝しながら、前号に続いてピースウォーク物語その2を書いた次第です。いつの日かコロナと共存しながら、みんなで歩くマーチとしてのピースウォーク×グローバルマーチができる日の来ることを願っています。

『出逢いのタペストリイ』

ピースウォークの日から半月ほどが経ち、新型コロナ拡大防止のためと言って出された緊急事態宣言。どうやら在宅生活がしばらく続きそうだぞ、と感じた4月末に、思い立ってあることをはじめました。1996年に書いた『出逢いのタペストリイ』という本を、ご希望の方に5月いっぱいプレゼントする、名づけて、「＃離れているけどつながってる ひとりぷろじぇくと」です。

どうしてそんなことをはじめたかというと。これまでのように自由に誰かと逢ったりおしゃべりしたり、ができなくなった分いっそう、会えない人たちと、離れているけどつながってる、の感覚を大事にしながらこの日々を過ごしたい、と強く思ったからです。物理的距離は必要だけど、そのせいで心まで遠くなるのは悲しい。もしかしたら、ひとりぼっちだと感じてる人がいるかもしれない。そんな人に、ねぇ、どうしてる？　つながってるよ、あなたのこと気にかけてるよ、と声をかけるようなきもち——本を贈る行為の、根っこのとこにその想いがありました。

私が『出逢いのタペストリイ』を書いた90年代というのは、エイズが一つの社会問題になっていた、そういう時代でした。当時学校でさかんに行われていた“エイズ教育”は、これこれで感染する／しない、がクイズ形式で出されて、怖い病気だから感染しないように！という伝え方ばかり。そのことにとても違和感がありました。うつらないための“予防教育”を熱心にすればするほど、自分からHIV/AIDSが遠のき、自分には関係のない病気になってしまって、その分、感染した人への差別が大きくなっていくんじゃないのかな、と思えてなりませんでした。

その頃私の周りには、全く違うとらえ方でHIV/AIDSのことを伝える人たちがいてくれたのです。その人たちと出逢う中で学んだこと、その学びを小学生に出前授業したこと、AIDSで亡くなった人の名前や想い出を縫い込んだメモリアルキルトのこと、差別について考えたことなどを、『出逢いのタペストリイ』の中で綴りました。

今、私たちの暮らす社会を見回した時、新しいウイルスに感染した人へのバッシングや、その人の家族や近しい人たちを極端に避けたり、時には監視したり、はたまたコロナこわいこわいと連発して、見えない敵と闘おう！　打ち勝とう！　といった勇ましい言葉のとびかう空気感が、全く同じといわないまでも、80年～90年代のHIV/AIDSに対する世間の空気感とすごく似ている気がしたのです。

AIDSという病気から、少なくとも私は学んだことがいっぱいあったように、このウイルスからも、

気づいたり考えさせられたりすることがきっと何かあるはず。この本が少しでもそのヒントになればいいな。何より本のしあわせは、人に読まれること。なので、あなたにも読んでいただけたらうれしいです――－そんな文章をSNSにあげると次つぎ、その本読みたいです、というメッセージやメールが届いて、それからひと月余り、郵便局に毎日通う日々が続きました。

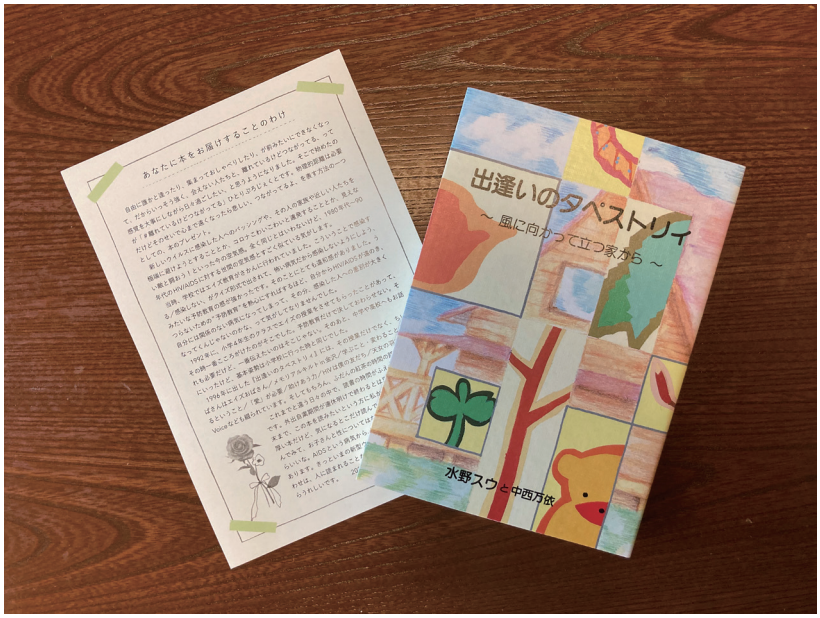
離れているけどつながってる

日を追うごと、予想外にたくさんの返信が届きはじめました。子育て中のママから「自分が受けたのはまさしくエイズ“予防”教育だった。小学校の授業で、エイズは怖い病気、というイメージだけが残りました」。お孫さんのいる方から「うつらないことだけを気にしすぎたら、知らないうちに誰かを排除していることになるとあらためて。感染した人の不安なきもちを考え、支えあう大切さを孫たちに伝えたいです」「コロナウイルスを敵視して有事とか国難とか、それを利用しての国の企てにも目を光らせてないといけないですね」「コロナのおかげで、いのちと政治がこんなに直結してると実感。必ず次の選挙に行きます」「どの章にも支えあって共に生きるというメッセージ。こんな時期だからこそ読んでほしいと願ったスウさんに深く感謝」などなど。

本をプレゼントします、と呼びかけた当初は、それで何がどうなるの？と自分でも正直思っていたのだけれど、メッセージが届くごとに、誰より一番多くのプレゼントを受け取ってよろこんでいるのは、間違いなく私だった！と気づきました。本を口実に、ここのところとんとご無沙汰していた人に、用事がないからと遠慮して連絡していなかった友に、コロナ時間が与えられたおかげでこちらから手をのばして、貴重ないくつものつながり直しができたりもしているのです。私こそ、あなたとつながっていたい、そう強く願っていたこと、今更のように実感したのでした。

「離れているけどつながってる――私の片手を差し出して、私をとおって反対の手で誰かとつなぐ、二本の手を、誰かと、別の誰かとつないで知らず知らず大きな網ができたらいいな」ある人からのリスポンスに、私も全く同感です。

2020.5.25



ピースウォーク金沢×グローバル気候マーチ金沢

3月20日（春分の日・金）ピースアクションについてのおしらせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月20日に予定していたピースウォークは、これまでのような大人数で街を歩くかたちでは行わず、延期することといたしました。それとともに、新しいかたちでのアクションへの参加を呼びかけます。

1 「平和と気候のWebアクション」を、広く日本全国、および世界中に呼びかけます。平和と気候変動への想いのメッセージを添えて、写真を撮ってSNSに投稿するアクションです。

イメージカラーの「水色」または「黄緑」の服や小物を身につけ、メッセージボードなどを持った写真にハッシュタグをつけて投稿し、3月19日（木）～3月22日（日）の期間で日本全国、世界中から集めます。Webアクションに参加した写真を提示すると、ピース割引をうけることができます。 写真は郵送でも受け付けます。詳しくはFacebookのイベントページをご覧ください。【ピースウォーク　平和と気候のWebアクション】https://www.facebook.com/events/1046943322354162/

2 当初の集合時間の3月20日13時に四高記公園にお越し下さった方には、主催者挨拶文と、感謝を込めてピース割引MAPをお渡しします。

3 ピース割引は、予定通り実施します。今回、ピース割引をして下さるのは24のお店ですが、どこもお客様が少なくなっているとお聞きしています。こんな時だからこそ、日頃からピースウォークに賛同し、応援して下さっているお店に、感謝の気持ちをお返ししたいと思います。

4 先述の通り、ピースウォーク金沢×グローバル気候マーチ金沢のウォークは延期いたします。ただし、すでにチラシをお配りするなどして告知をしてきましたので、当初の予定時刻・予定のコースで、実行委員中心に少人数で、延期のお知らせを掲げて歩きます。ウォークはいったん「延期」できても、平和や気候の問題は待ったなしの喫緊の課題で、「延期」はできません。その想いも込めて歩こうと思います（体調に留意して、飛沫感染防止のマスクを着け、互いに十分な間隔を空けて）。

5 ピースウォーク金沢2020×グローバル気候マーチ金沢は2020年中に日を改めて実行する予定です。時期やコースなどについては、今後の実行委員会で検討していきます。参加されるお子さんや高齢者の方々も、安心して笑顔で歩けるように。

最後に――今、この時期日本中で、世界中で、数え切れないほどの苦渋の決断が行われています。大変な状況の中、予定されていたこのアクションを全面的に延期するという選択もありましたが、ピースウォーク金沢が20年かけて不断に積み重ねてきた、ささやかであっても「市民が思いを表す場」を、手放してはいけないと考えました。

実行委員一人ひとりが真剣に考え、悩んで、対話を重ね、異論を尊重しあいながら、この結論に達しましたことをご理解いただければ幸いです。それに至るまでの過程もまた、ピースへのウォークだと、私たちは思っています。

2020年3月20日

ピースウォーク金沢2020実行委員会
地球の未来をリデザインする会

メッセージを添えた写真を撮って送ってね！